

## 令和元年度事故防止委員会活動報告

中澤 勝義

令和元年度も、事故防止委員会は継続して、事故報告の検証を中心にヒヤリハットレポートも引き続き検証しています。昨年と比較すると、事故報告とヒヤリハットレポート共に増えました。昨年は減った要因として、危険を事前に予測して行動する予知訓練の成果と、同じ事故を起こさないという再発防止に取り組めたと報告しましたが、今年増えた理由は、改めてヒヤリハットレポートの見直しを行なった結果です。減った事が良い事とせず、小さな事故が大きな事故に繋がる事を意識しようとして取り組んできました。

その為には、レポートを書かされるのではなく、自ら書き原因と対策をしっかりと行う事が重要です。それには書式についても見直しする必要がありますがありました。今までは個人の記録は記録としてパソコン入力し、ここで発生したヒヤリレポートは違う書式で作成していました。特養の記録システムの変更により、日頃の記録から直ぐにレポートに移せるシステムが存在しました。それを活用する事で入力負担が減ります。毎月開催している事故防止委員会では前月のヒヤリの集計もすべて手入力でしたが、そのシステムを活用すれば、自動で集計までが可能となりで時間も削減されます。そのシステムは各事業所によってカスタマイズが出来ますが、専門ではないので業者に確認しながら少しずつ変えた為、下半期からの移行となりました。

そして、必須の研修会は二度行いました。上半期は、ヒヤリ様式の変更と共にヒヤリレポートの意義を研修しました。当初の予定では二回の予定でしたが一回追加し計三回行いました。八色園としての事故防止とヒヤリの意義、視点の違いから対策が変わるので視点は一点ではなく複数点から見た時に再発防止策も複数ある事、当該者の他に多職種から見た視点も有効である事、ヒヤリレポートの書き方等を講義し、新人研修の講義にも使われました。下半期の研修は実際にあつた事例をもとに、もう一度みんなで考えようと、他の原因や他の対策があるのではないか、『広い視点』が必要である事を継続して学ぶことができました。昨年と同じような内容ですが、繰り返し同じ事故を繰り返さない為の原因分析と再発防止策を学びました。職員全員とまではいかなかったので今後も繰り返し広い視野を検討する事を学んでいく必要があります。次年度も普段ヒヤツとした事を検

証し、大きな事故が繰り返さない事を目指していきたいと思えます。